

整理番号 2021P-320
補助事業名 2021年度「障がいのある人がその人らしく生き生きとした生活を送ることを応援する」補助事業
補助事業者名 社会福祉法人彩明会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

感染リスクを減らし、感染拡大の防止に努め、更には非常時に備えるために必要な物資を整備することで、マスクの着用などの感染予防に基づいた行動をとることが難しい知的障害のある方の生命や安全を守り、一人ひとりがその人らしく生き生きとした生活を送ることができるよう支援していくことを目的としています。

(2) 実施内容

パルスオキシメーターを障害者支援施設やグループホームの各ユニットに1台ずつ全部で10台を配布し、利用者様の日々の健康管理に使用いたします。入所施設、通所施設、相談支援センターの5事業所の玄関にサーモカメラを設置し、来客者や職員の検温に使用いたします。多目的テントは、入所施設敷地内に保管し、感染症クラスターや自然災害などの非常時の他、イベントなどに活用してまいります。

パルスオキシメーター、サーモカメラ、多目的テント

(<http://www.applehouse.or.jp/jkahoukoku.pdf>)



導入したパルスオキシメーター



使用の様子



玄関に設置したサーモカメラ



使用の様子



多目的テント設営の様子



設営が完了した多目的テント

2 予想される事業実施効果

障害者支援施設やグループホームでは、ご自身の体調不良を伝えることが難しい方が多くいらっしゃいます。パルスオキシメーターを使用することで、体温と併せて血中酸素濃度を毎日測定することが可能となり、これまで見落としがちだった体調の変化にも気付けるようになることが期待されます。

非接触で体温を測ることができるサーモカメラを各事業所の玄関に設置することで、通所利用者の方がご自身で体温測定するようになり、検温への意識が高まっています。

また、これまで職員は出退勤時に共有の体温計で検温して、その都度消毒を行っていましたが、この負担軽減にも繋がっています。

感染症クラスターが発生しゾーニングを実施した際には、多目的テントを活用することで、季節や天候にも臨機応変に対応できる本体施設と隔離棟を結ぶ中継地点を確保することが可能となります。自然災害が発生し建物の使用が限られた際にも、屋外拠点の一つとしての使用が期待されます。非常時だけでなく、イベントやアウトドアといった余暇の楽しみにも活かせるものと思われます。

3 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 社会福祉法人 彩明会 （シャカイフクシホウジン サイメイカイ）

住 所： 〒363-0006

埼玉県桶川市倉田513

代 表 者： 理事長 白石 孝之 （リジチヨウ シライシ タカユキ）

担 当 部 署： 総務課 （ソウムカ）

担 当 者 名： 総務課長 佐藤 達也 （ソウムカチヨウ サトウ タツヤ）

電 話 番 号： 048-728-9843

F A X： 048-728-9844

E - m a i l： info@applehouse.or.jp

U R L： <http://www.applehouse.or.jp>